

理数アカデミー 合同入校式

5月19日(日)、令和元年度理数アカデミー合同入校式が教育プラザで行われました。東京大学との連携で開設したJSTの「ジュニアドクター育成塾」も3年目になります。この育成塾は全国展開のため、東京の学習院初等科や神戸鷹匠中(東京に転居予定)から、電車で通う受講生も参加予定です。

来賓の市教育委員会・中山教育長から、「理数アカデミーの参加を最終的には、皆さん自身の意志で決めたと思います。理数アカデミーには、ワクワクドキドキ楽しいことがいっぱいあります。ここに来ようと思った自分の信念を信じて最後まで頑張ってください。」と励ましの言葉がありました。日立理科クラブの瀧澤代表から、「理数アカデミーというせつかくの機会、不思議さを追究したり自分の考えをしっかりと述べたりする活動を通して、参加している仲間と友達になり、楽しく活動して欲しい。」というメッセージが送られました。

受講生を代表して、日立一高附属中1年・前野蒼馬君が、「ノーベル物理学賞を受賞した朝永振一郎博士の言葉に、『**不思議だと思ふこと、これが科学の芽です。よく観察して確かめ、そして考えること、これが科学の茎です。そして、最後にはなぞが解ける。これが科学の花です。**』という言葉があります。ぼくは、今年の抱負を、自分の興味を持ったこと、不思議だと思ったことを大切に、自分なりの考えを探すことにしました。…以下略…」と、力強い抱負を述べました。

その後、合同入校式を記念して、山梨大学教授・埴雅典先生の「**光で信号を送ろう!インターネットを支える光通信技術**」という演題の講演がありました。先生は、電子情報通信学会、米国電気学会、米国光学会、日本教育工学会のそれぞれの会員で、主として光ファイバ通信、光信号処理技術の研究に従事してこられた方です。糸電話を導入とし、光糸電話の簡単な実験をしたりして、光は波であることや光ファイバの利点などについて、受講生に分かりやすい言葉で光信号の仕組みを説明していました。また、その原理を導くためには、数学や物理の学問がとても大切であることも力説していました。通信技術は、学校も変えてしまい、どこでも学校になり、学びと一緒に移動するということや、テクノロジーの進歩で常に情報にアクセス可能であること。世界のどこでも繋がっていてグローバル化、開放的になっている。正しく活用するためには、情報通信技術がとても重要であることなどを説明していました。まさにインターネット世代の受講生たちは、興味を示して真剣に耳を傾けていました。



山梨大学教授・埴雅典先生

理数アカデミーの講師は、日製関係のOBが中心でしたが、今年度から、学校のOB(元小・中学校長)が3名講師として加わりました。日立一高附属中の最初の理数アカデミー受講生が、今年4月に東京大学に入学しています。近い将来、受講生から科学者や技術者がたくさん現れることを期待しています。

がんばれ!! 科学者の卵!!



理科クラス40名



算数・数学クラス30名



自由研究コース24名